

令和5年度 田原市議会広報広聴委員会 行政視察報告書

日 程 令和5年7月26日(水)～7月27日(木)

視察先 1「意見交換会について」(滋賀県長浜市)

2「議会報告会について」(滋賀県彦根市)

参加者 委員長 内藤 喜久枝 副委員長 古川 幸宏
委員 小川 貴夫 委員 村上 誠
" 岡本 重明 " 真野 尚功
" 柳元 浩幸
事務局 近藤 絵衣巳

1「意見交換会について」(滋賀県長浜市)

令和5年7月26日(水) 13:30～15:00

対応者 長浜市議会副議長 伊藤 喜久雄 氏
広報広聴委員長 鬼頭 明男 氏
広報広聴副委員長 千田 貞之 氏
長浜市議会事務局主査 廣 弘実 氏
長浜市議会事務局主査 前田 紗希 氏

(1) 概要

長浜市は、滋賀県の東北部に位置し、北は福井県、東は岐阜県に接し、周囲は伊吹山地などの山々と、琵琶湖に面しており、琵琶湖に注ぐ姉川や高時川等により形成された湖北平野と湖岸風景が広がり、優れた自然環境を有している。平成18年長浜市、浅井町、びわ町が合併、平成22年に長浜市、虎姫町、湖北町、高月町、木之本町、余呉町、西浅井町が合併し、現在に至っている。行政面積は681.02k㎡、人口は約11万4千人(R5.7.1時点)。

令和5年7月時点で市議会議員は22人。常任委員会は、総務教育(7人)、健康福祉(7人)、産業建設(7人)、予算(21人)の4委員会。他に議会運営委員会(8人)、広報広聴委員会(12人)などがある。

長浜市議会では、平成26年1月の第1回から平成30年5月の第10回までは、第1部で各常任委員会から予算や決算の審査内容を中心に報告し、第2部でテーマに基づく意見交換を実施した。しかし、従来の意見交換会では、要望や個人的な意見の演説の場になっていたり、女性や若年代の参加者が少なく、参加者が固定化されているなどの課題があった。これらの課題や意見交換会の目的(市民から広く意見を伺い議会及び議員活動に活かすこと、議会や議員活動に理解を深めていただくこと)を踏まえ、様々なアイデアや意見を出し合って、共有しやすい意見交換の場として、ワールドカフェ方式を採用し、平成30年11月の第11回から令和元年11月の第13回までの第2部では、ワールドカフェ方式による意見交換会を実施した。また、令和5年

5月第15回では、「子育てしやすい長浜市になるには」をテーマとし、そのテーマに関係する団体を対象としたワールドカフェ方式による意見交換会を実施している。また、コロナ禍の令和4年1月の第14回では、市内の全高校を対象としたオンラインでの意見交換会を開催し、若者の視点からアイデアなどの意見を聞くなどの取組も行っている。

(2) 参考になった点

- 女性や若者世代の参加が少ないことや、意見が要望や批判中心になっていたことなどから、広報広聴委員会で意見交換会を開催する目的を確認し、ワールドカフェ方式などの方法を考えて取り入れている。
- 高校生とZoomによるオンライン意見交換会を開催し、率直な意見を聞くことができている。アンケートでは、高校生は、対面による意見交換会よりもオンラインを希望している。
- ワールドカフェ方式の意見交換会では、開始前にルールやエチケットなどを参加者に案内している。議員は、進行役、聞き役に徹している。
- 意見交換会を行う際、テーマを決めて、そのテーマに関係する方々に参加してもらうなど、意見が出やすく、話しやすい進め方を工夫している。また、テーマ、関係団体の選定理由などを伝えることで、参加者が理解、納得して参加しているため、意見が出しやすい。
- 長浜市は面積が広く、地域の特性が異なることから、地域ごとに広聴活動を行う必要がある。

(3) 所感

- 本市の議員とたはらトークも少人数のグループで行うワールドカフェ方式で行うのも良いのではと思った。若者や女性から意見を多く取り入れる工夫をしたい。
- 開催前、開催日当日に議員間で意見交換会の流れを確認する必要があると感じた。また、参加者とも意見交換会のルールなど実施方法の認識を合わせておく必要があると思った。
- 若者や学生との意見交換会は、オンライン開催で実施してみたいと思った。市内に関係のある高校生が、地域に何を必要と感じているのかなど、意見交換を行ってみたい。
- 意見交換のテーマを絞って行うことにより、意見をより掘り下げることができると思う。課題解決に向けては、対象者で課題を共有し、共に解決できる仕組みができれば有効な取組になると感じた。また、対象者を絞って意見交換を行うことで、他団体間のつながりが生まれるという効果は興味深い。
- 意見交換会などを行う場合には、各議員が趣旨を理解し、有意義な意見交換会が実施できるよう、技術を向上させることが大切であると思う。

- 意見交換会から1週間以内に意見をまとめ、その後、広報広聴委員会で常任委員会へ意見の振り分けを行っているとのことで、本市も取り入れていきたいと思った。



2 「議会報告会について」(滋賀県彦根市)

令和5年7月27日(木) 9:20 ~ 10:50

対応者 彦根市議会議長 上 杉 正 敏 氏

議会改革特別委員長 北 川 元 気 氏

議会改革特別委員 小 川 隆 史 氏

彦根市議会事務局主任 岡 嶋 真 未 氏

(1) 概 要

彦根市は、琵琶湖と鈴鹿山系に囲まれ、豊かな自然に恵まれたまちである。昭和12年に彦根町、松原村、青波村、福満村、千本村、北青柳村が合併し、彦根市が誕生した。その後、6回合併し、現在に至っている。行政面積は196.87k㎡、人口は11万1千人(R5.7.31時点)。

令和5年7月時点で市議会議員は24人。常任委員会は、企画総務消防(8人)、福祉病院教育(8人)、市民産業建設(8人)、予算(12人)の4委員会。他に議会改革特別委員会(8人)、議会運営委員会(7人)などがある。

また、彦根市議会は、広報及び広聴の機能の充実を図るため、平成27年5月に彦根市議会広報広聴組織規程を定め、議員全員が参画する3つの委員会を設置した。平成28年6月に3つの委員会の在り方を研究し、委員会名の改正を含め、規程を改正した。委員会は、市民に開かれた分かりやすい議会の実現に向けて、市民に身近な議会とすることを目的とした議場開放促進委員会、議会の情報を発信し、より多くの市民に議会に対する理解及び認識を深めてもらうための広報を行う広報委員会、議会活動の情報を発信・報告し、来場等をきっかけとして広く広聴を行う広聴委員会である。

彦根市議会では、平成27年度に広聴委員会で議会報告会の在り方について検討し、当時参加者が減少していたことからワークショップ形式の開催とし、報告は概要程度で、意見交換を中心に、常任委員会ごとに市内各種団体を対象として実施することとした。平成28年には、選挙年齢引き下げを受け、若年層の意見を聞くため、市内の大学生や高校生との意見交換をワークショップ形式にて行った。しかし、各種団体との意見交換が続いたことで、一般市民の意見が聞けていないため、一般市民を対象に第1部で議会報告会、第2部で委員会ごとにテーマを設定した意見交換会を実施した。

平成29年度からは、参加者が気軽に参加し、意見を出すことができるワールドカフェ方式「カタリバ」を開催し、平成31年度からは、商業施設で誰でも好きなタイミングで参加できるオープン型の報告会を開催し、クイズ大会などを実施し、参加者を増やす取組を行った。

令和2年度からは、コロナ禍のためYouTubeによる報告会を実施したが、広聴機能が果たせていないや、電子機器が得意でない市民にも情報が届くような工夫が必要などの課題が見られた。広聴の強化として、令和3年度からは、少人数でゆっくり意見交換をする「議会広聴の日」や、議員が外に出向き意見を聞く「出張！議会広聴の日」を実施し、シールを貼ってアンケートに回答していただくなどの取組を実施している。

(2) 参考になった点

- 議員は議場開放促進委員会、広報委員会、広聴委員会のいずれかに属し、全議員が広報広聴活動に関わっている。
- ワークショップ形式、ワールドカフェ方式、オンライン報告会、オープン型等、常に新しい広聴の形を模索し、変化しながら実践している。
- ワークショップ形式での開催は、テーマと対象者が一致するようにしている。
- 議会報告会ごとに総括を実施しており、次の課題を明確にして進めている。

(3) 所 感

- 一方的な報告会ではなく、市民の意見を多く聞く形式を取り入れていきたい。気軽に参加できるワールドカフェ方式、少人数での意見交換会、オンライン報告会など様々な手法で取り組んでみても良いと思う。
- 市民まつり等大勢の人が多く行き来する会場では、ブースの入口でシールアンケートやクイズは、呼び込みに有効だと思った。
- 参加対象者は地域だけでなく、福祉や防災といったカテゴリで参加してもらう取組が必要と思った。テーマを決めて意見交換会を開催することが重要と感じた。
- 名刺サイズのチラシは、手元に残る宣伝になると感じた。
- 各議員の資質向上が必要だと感じた。議員間や執行部とディスカッションを行うなど、経験を積む場があると良いと思う。
- 広報広聴委員だけでなく、全議員が広聴活動を考える場を設け、全議員が共通認識を持ち広聴活動に参画する必要があると感じた。
- 広報広聴委員会の編成や議員とたはらトークの開催方法・回数なども検討すべきと感じた。

